

第 1217 回放送分『炎症性腸疾患』5 回目

ゲスト：上小鶴孝二ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「炎症性腸疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 上小鶴孝二（かみこづる こうじ）ドクターです。
上小鶴さん、最終週もよろしくお願いいたします。

上小鶴Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週はクローン病の検査や治療について教えていただきました。
今日は何についてお話しいただけますか。

上小鶴Dr.

今日は、腸管型ベーチェット病についてお伝えいたします。
先週までお伝えしてきた、潰瘍性大腸炎とクローン病が
炎症性腸疾患の代表的な疾患ですが、腸管型ベーチェット病という病気もあります。

二見いすず

腸管型ベーチェット病ですね。

上小鶴Dr.

世界的に見てアジアの患者さんが多く、シルクロード病とも言われています。
男性が多いですが、女性の患者さんも増えてきました。

二見いすず

こういった病気なのですか？

上小鶴Dr.

まず、ベーチェット病とは、皮膚や口、眼や性器に炎症が出来るような病気です。
ベーチェット病の診断基準を満たし、消化管に炎症ができるような病気を
腸管ベーチェット病といいます。
消化器の炎症は特に小腸と大腸のつなぎ目のところが多いです。
症状としては、慢性の下痢や血便、体重減少、倦怠感、腹痛などです。

二見いすず

クローン病の症状と似ていますね。治療はどのようなことを行うのでしょうか？

上小鶴Dr.

ステロイドや免疫抑制剤、生物学的製剤などを使っています。
ベーチェット病は腸管に穴が開くことを繰り返す方がいらっしゃるので、その点は十分に気をつける必要があります。

二見いすず

その場合は手術になるのですか？

上小鶴Dr.

そうですね。腸に穴があけば基本的には手術になります。
ただ、手術をしてつないだ部分にまた炎症が出来ることもあります。

二見いすず

腸管型ベーチェット病も完治ではなく、
症状が落ち着いている状態の寛解と、
症状が悪化している状態の再燃を繰り返すのでしょうか？

上小鶴Dr.

はい。治療薬のおかげで以前よりは治療成績も向上はしているのですが、
まだまだ大変な病気であるのは間違いないです。

二見いすず

食事についてはどうでしょうか？前回のクローン病のときは、
以前はかなり制限されるというお話でした。

上小鶴Dr.

クローン病ほど厳しくはありませんが、栄養療法を行う場合もあります。
クローン病、そして腸管型ベーチェット病などの炎症性腸疾患の患者さんを
多く診てきていますが、食事の相談はとてもよく受けます。
病気でない方との食事で困る場合には、たとえばファミレスや居酒屋などだと、さまざまなメニューがあるので、ご自身で食べられるものを選びながら、病気でない方とも一緒に食事がしやすいとお伝えしています。
やはり主治医として、さまざまなライフステージにおいて
患者さんの人生に伴走するような信頼関係を築くことも
治療において大切だと考えています。

二見いすず

よく分かりました。
今月は炎症性腸疾患について、
鹿児島県医師会 上小鶴孝二ドクターに貴重なお話をさせていただきました。
上小鶴さん、ありがとうございました。

上小鶴Dr.

ありがとうございました。